

心豊かな暮らし

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

縁

en

2015 Vol.37 winter





季刊
縁 en 2015 Vol.37 winter

心豊かな暮らし

contents

P 3 >>

特集

ONとOFFを切り替えて

家ではくつろぐことにしました 岐阜県大垣市 T 様邸

P 7 >>

十六銀行 赤坂支店 新築移転 OPEN

設計・監理：早川正夫建築設計事務所 施工：矢橋林業株式会社

P 13 >>

矢橋の家

ライフスタイル別 モデルハウス3棟 同時公開中！

連載

中山道赤坂つれづれの記 文/故 清水春一

太田錦城

表紙写真 金生山 雪中の柿

P.1 十六銀行赤坂支店 外観

P.2 十六銀行赤坂支店 応接室

矢橋オリジナル無垢フローリング

と矢橋工房の家具が調和する。

壁には土佐和紙を使用

十六銀行 赤坂支店





02



03

- 01 家族でくつろぐリビング。和室とつながっているため、広々としている
- 02 リビングからつながる和室。リビングと和室の間に段差がないため、子どもが行き来する時も安心
- 03 飾り棚、矢橋オリジナルドア、オリジナル照明の透灯(とうとう)など木の温もりを感じる玄関ホール
- 04 矢橋の家「懐」(かい)シリーズの外観。ビルトインガレージの上は、たっぷり収納できる納戸となっている
- 05 玄関からビルトインガレージへと続く通路。雨に濡れることなく小さなお子さまを車に乗せることができるため安心



心豊かな暮らし

KAI
懐

01



05



04

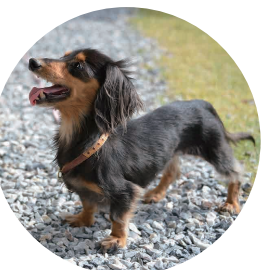
■ 特集

ONとOFFを切り替えて 家ではくつろぐことにしました

岐阜県大垣市 T様邸



ウメキチくん



モモコちゃん

日々身体を鍛え、体力づくりに励んでいるというご主人。仕事柄、トレーニングが欠かせない。今までアパート住まいだったT様は、新居ではトレーニングルームをつくり家でも鍛えようと考えていた。しかし、いざ入居してみると全く考えが変わったという。「ONとOFFを切り替えて、家ではくつろぐことにしました。」とご主人。この物件を建築中に見に来られて、気に入っていただいたT様。決め手は、部屋数や収納、ビルトインガレージなどの機能面だった。様々な物件を見てまわり、この矢橋の家を見た時にこれだ!と。家を探していたころは、機能面を重視していたというT様だが、実際に暮らしてみると、家にはもっと大切な役目があったということが分かったという。

家に帰ると、妻と娘、愛犬のウメキチとモモコが温かく迎えてくれるため、ほっとして肩の力が抜ける。今までは、子どもの泣き声などが気になっていたが、これからは、アパートほど気を遣わなくて良いため、安心してのびのびと子育てができる。と笑顔のT様。



08



07



12



10



11



09

「気に入った」という言葉とともに矢橋の家を選んで頂きました。ご入居後には、庭の手入れや家庭菜園を楽しんでいらっしゃる様子、家の中でお子様と楽しく過ごしていらっしゃる様子を見せて頂くことができました。その姿に、T様の新たな暮らしのお手伝いのできたのだと改めて安心し、喜びを感じております。

これからお子様の成長と共に、ご家族での幸せな思い出が増えていくことだと思います。お会いするたびに、そのような話が聞けることを楽しみにしております。

今後も引き続き宜しくお願い致します。ありがとうございました。



営業担当
住宅部 細野喬太

06 ご主人に甘える愛犬たち。ご主人お気に入りのお庭

07 奥様お気に入りのキッチン。広々としていて収納もたっぷり

08 駐車スペースの一角は、コーナーツリーやガス灯で彩りを

09 階段からつながる広い納戸。ここも奥様のお気に入りの場所

10 最近はじめた家庭菜園は、ほうれん草とかわいいイチゴが

11 「この間、芝刈りをしました」とご主人。お庭のお手入れにも力が入る

12 アプローチ両脇の樹木や照明は、建物の顔に彩りを添える

Natural Life

—— 緑の中で自然に暮らす ——

ご主人の一番のお気に入り場所は、お庭。休日は、庭木や花を眺めながらのんびりと。奥様のお気に入り、木の温もりを感じる空間。そして、キッチン。「広々としていてスムーズなお料理ができるので、使っているうちに一番のお気に入り場所になりました。」と奥様。ご主人のためにも栄養バランスを考えたお料理が作れるように様々な工夫をされているとか。

お庭のお手入れや家庭菜園にも挑戦をされているT様。今後、お子さまが大きくなりご家族みんなで楽しめる様子が目に浮かぶ。





十六銀行



十六銀行 赤坂支店

新築移転 OPEN



設計・監理：早川正夫建築設計事務所
施工：矢橋林業株式会社

地域の皆さまには、平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新「赤坂支店」は、旧中山道沿いの「赤坂宿本陣跡地」隣(大垣市赤坂町248番地)に移転し、平成27年11月4日(水)に新築オープンいたしました。

これもひとえに、皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

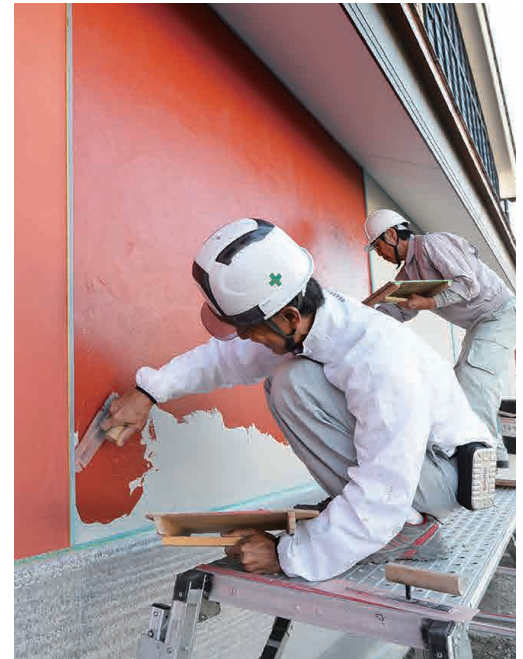
明治10年、「第十六国立銀行」として創業以来、一貫して「地域社会に奉仕する」という経営理念のもと、健全経営に徹し、幾多の困難に遭遇しながらも、明治、大正、昭和、平成にわたり、着実に発展を遂げることができました。そんな十六銀行が赤坂銀行と深い絆を持つことになるのは、70年を超える時をさかのぼることとなります。

赤坂支店は、1888年(明治21年)1月、赤坂村の素封家、矢橋家の徳次郎氏、敬吉氏、友吉氏の三人をはじめ、高橋仁平氏、竹中與一氏ら地主・商工業者26名が発起人となり設立した興産会社が前身です。1920年(明治35年)1月に赤坂銀行に改称、1942年(昭和17年)3月に国の勅奨に従い、十六銀行に営業譲渡を行い、同年5月に十六銀行赤坂支店として歩みはじめました。

赤坂支店は、十六銀行の発祥の一つとして百年以上の歴史があり、古くから地域のお客さまとともに歩んでまいりました。これからも、新たなまちづくりの拠点として、地域の皆さまに愛され、地域の発展に貢献できる支店を目指してまいります。

行員一同気持ちを新たに、より一層地元の皆さまのお役に立てますようサービス向上に努めてまいりますので、引き続きご支援ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

株式会社十六銀行 頭取 村瀬 幸雄





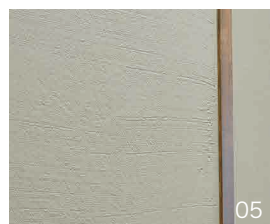
03



02



06



05



07



04



09



10



08



01

01 木の温もりを感じる明るく開放的な店内。床には矢橋大理石様の大理石を使用。ギャラリースペースは、店内からだけでなく展示方法により外からもパネルや絵画等を楽しむことができるようになっている

02 エントランス正面のATM。休日でも利用できる

03 壁にタイルを配した応接室。腰壁の無垢材との調和が美しい

04 2F会議室。矢橋オリジナル無垢フローリングと塗り壁が、明るくやわらかい雰囲気をつくり出している

05 会議室の壁。自然素材の薩摩中霧島壁。室内が乾燥すると壁内部の湿気を放出し湿度を調整してくれる。消臭効果もある

06 03の応接室のタイル。岐阜県多治見市のタイルを使用

07 365日利用可能な全自動型貸金庫。落ち着いたきのある個室

08 お客様も利用できる洗面化粧台。木と土と石が調和している

09 行員用のお手洗い。レトロな風合いのタイルを使用。

10 09のタイル。お客様だけでなく行員様もほっと一息できるよう、お手洗いの他にも応接室や食堂等の個室は特に居心地のよい空間となる様な仕様にしている

温かみがあり落ち着く 居心地のよい空間に

旧中山道沿いの「赤坂宿本陣跡地」隣に建てられた十六銀行赤坂支店は、昔の街並をイメージした外観となっています。西側の壁には、江戸時代からこの地に受け継がれている赤壁を再現しました。内装もできる限り自然素材を使い、ひとつひとつ丁寧に仕上げております。広がりのある天井、職人のコテ跡が味わい深い塗り壁、そして、矢橋オリジナル無垢フローリングやその他の造作材、さらに矢橋大理石様の石材が融合し、本物の空気感を醸し出しています。ギャラリースペースのあるロビーや応接室、会議室なども利用される方にとって居心地のよい空間となるように仕上げました。

今後、この新支店が銀行としてだけでなく、地域の方々が集う場所となり、新たなまちづくりの拠点として、皆様に愛される支店となれることを祈念しております。



オープニングセレモニー：2015.11.4



完成内覧会：2015.11.1



竣工式：2015.10.27



建方：2015.7.21



地鎮祭：2015.5.22



着工前：2015.4.12（撮影）



赤坂銀行記念写真（前列右から4番目 第8代頭取 高橋順吉様）



十六銀行

- 創 立 明治10年10月
- 本 店 岐阜市神田町8丁目26番地
- 資 本 金 368億円
- 店 舗 数 国内158店舗 海外駐在員事務所4か所
- 従業員数 3,408名

平成27年9月30日現在

十六銀行と赤坂銀行のあゆみ

- 明治10年 **第十六国立銀行開業**
当時、岐阜県下では民間の業者には融資をしなかったため、商工業者らは、地方金融機関の設立を待望していた
- 明治21年 **興産会社を設立**
矢橋敬吉が社長となり地元の名士が赤坂銀行の前身となる会社を設立
- 明治26年 **興産会社は興産株式会社に改組し普通銀行に転換**
銀行条例により、大蔵大臣の定款許可を得る
- 明治29年 **第十六国立銀行は株式会社十六銀行と改称**
銀行条例により、国立銀行から私立銀行に改組
- 明治35年 **興産株式会社は赤坂銀行と改称**
初代頭取には、矢橋宗太郎（矢橋敬吉の父）が就任
- 昭和17年 **十六銀行と赤坂銀行が合同を果たし現在の十六銀行赤坂支店となる**

十六銀行赤坂支店 新支店受注に際して

平素は格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございます。

さて、この度の、株式会社十六銀行赤坂支店の新支店の建設をご発注賜り、去る10月27日に竣工、お引き渡しをさせて頂きました。

弊社と十六銀行様との取引の始まりは、戦前の矢橋家が出資致しておりました赤坂銀行に端を発します。昭和17年に赤坂銀行は十六銀行様に吸収合併となりました。その赤坂銀行は矢橋家のみならず、新赤坂支店の地主様の竹中様も、当時の赤坂銀行の出資でした。当時の赤坂銀行の出資者の一人でもあり、また支配人にご就任だった高橋順吉様は、十六銀行に吸収後も21年間頭取としてご活躍になりました。

戦後間もない矢橋家は敗戦の混乱に伴い、石灰事業の衰退で厳しい情勢にありました。更に、それまでの最大需要家だったカーバイト向けの出荷が激減し、矢橋工業は経営危機に瀕しており、新しい需要開拓が急務でありました。そのような中、三星鉱業を創立することで、中部周辺の多鉱山に比して石灰石の原石の品質優位であった愛宕鉱山の開発と東海道線を利用する事で、石灰石の輸送を安定させコストの削減を図り、更に当時の新日鐵様のオンサイトに工場を建設する組み合わせで、現在の新日鐵住金様へ石灰の納入が叶いました。しかし、この事業には莫大な資金が必要でした。更に当時は、公害問題で赤坂の街の皆さまにもご迷惑をかけており、公害防止対策は急務であり、事業を継続する為には必要条件でした。社会に対してコミットしなければならない公

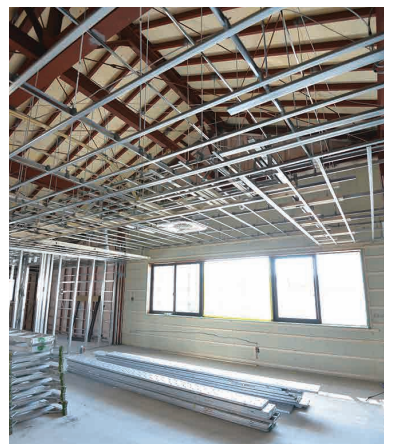
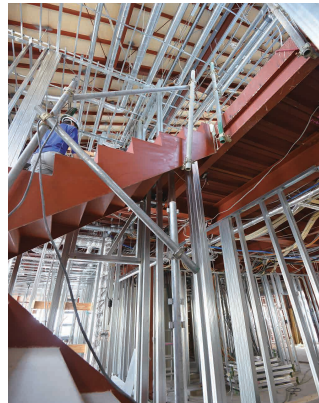
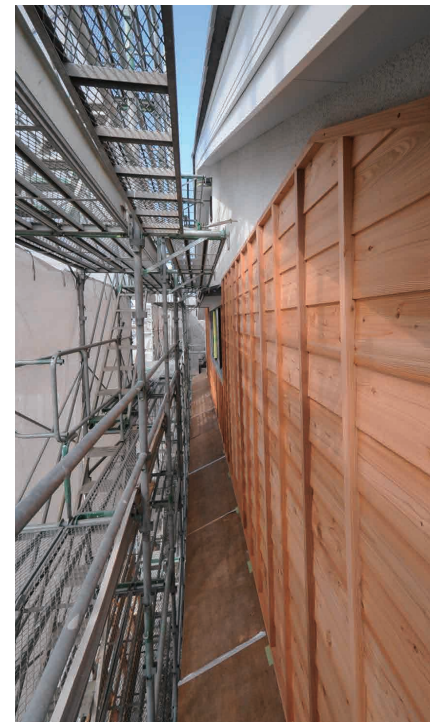
害防止にも莫大な費用が掛かります。加えて、当時の日本はすべての産業が増産対策、公害防止投資と事業を革新すべく膨大な資金需要があり、各社にとって先ずもって資金調達为企业の生き残りの為の最大の命綱でありました。そのような状況下で高橋頭取様率いる十六銀行様からは膨大な資金を当社はもとより赤坂の業者に供給して頂きました。現在の石灰業界のトップはこの世代の子供の世代であり、幼い頃からこのご恩を忘れることは絶対にあってはならないと教えられて参りました。私の父は資金調達に奔走し、血のにじむ思いであつたとよく話しておりました。

代々矢橋グループのトップに立つ者は、十六銀行様に日本の戦後の復興期から高度経済成長に至る段階において絶大なご支援を頂き、今日があることを決して忘れてはならないと思っております。小生にはこの度の十六銀行様の赤坂支店の新支店への新築移転には特別な深い思いがございました。

弊社に工事のご用命を賜り、早川正夫建築設計事務所の岩橋先生をはじめ弊社の社員一同、協力業者の方々とも力を合わせて、更に天候にも恵まれ無事竣工することが出来ました。現社長であります、小生はじめ歴代社長も深い感謝と同時に喜んでくれていると思います。

最後に十六銀行様の益々のご発展と、十六銀行赤坂支店のご清栄を心から祈念致しまして竣工の御礼とさせて頂きます。

矢橋林業株式会社
代表取締役社長 矢橋龍宜



受け継がれていく 赤壁

江戸時代、この場所には造り酒屋がありました。正面の入口には赤い壁の北門があり、西側には裏口として使用されていたと思われる西門がありました。現在も西の赤壁は残されているため、当時の面影が伺えます。酒屋は時を経て、ガソリンスタンドとなりました。北門はなくなりましたが、ガソリンスタンドは「赤壁商会」と名付けられ、赤壁は受け継がれてきました。そしてこの度、十六銀行様により再び赤い壁が再現され、また新たな歴史が刻まれていきます。



現在も残る赤壁

60TH ANNIVERSARY
悠楽
YUURAKU

四季を感じ本物を取り合わせ
自分らしく住まいを彩り
上質な暮らしを楽しむ家



矢橋オリジナル無垢フローリング
(チーク材 オイルフィニッシュ)

矢橋の家を見に行こう。

ライフスタイル別
モデルハウス 3 棟 同時公開中！

OU MODEL HOUSE



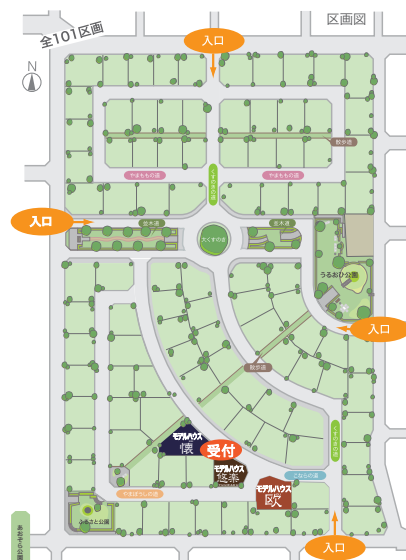
欧

木と土と石を使った
近代西洋建築建築の復刻モデル

心豊かな暮らし
矢橋の家



モデルハウスはこちらでご覧いただけます。



NAVI: 岐阜県大垣市荒尾町1524-95

矢橋林業株式会社
YABASHI
住宅部 〒503-2122 岐阜県不破郡垂井町表佐410-1 TEL.0584-22-0001
品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001 認証取得企業
0120-884-039
http://www.yabashi.co.jp/house/
矢橋林業 検索

KAI MODEL HOUSE

懐

豊かさを実感できる
ミドルクラスが綺麗で
粋な暮らしを営む
現代数寄屋



矢橋オリジナル無垢フローリング
(ナラ材)

温故知新

矢橋の家の理念

人が住むべき緑豊かな心休まる良い環境に、天然素材を活かした
日本の伝統を受け継ぐ家に住もう。日本の原風景を取り戻し、日本人が育つ住環境をつくる。

矢橋の家のこだわり

安全 安心 本物 快適 家事 収納 子育 趣味



本物

矢橋オリジナル無垢フローリング
(ナラ材)



太田錦城

うみゆり連載集

中山道赤坂つれづれの記

故清水

春一

江村北海や頼山陽の来遊による美濃に与えた文化的な影響がいかに大きかったかは、それ以来、美濃に学者文人たちが次々と育っていったことをみても、明らかでしょう。その基礎となったのが、矢橋兄弟の存在があつてのことであり、赤山・赤水両人の京都遊学による深い人間的な(師弟・友情など)関係が培われていたからであると思われ、そうした因縁関係を考えるとき、誠に尊いものを感じずにはおれません。

なお、前に紹介した江村北海の来訪を心から歓待した赤山の詩と同時に、赤水もまた「北海先生の框訪を謝して賦す」という七言絶句の漢詩を遺しています。「歌行に長じ、華麗を以て勝る」と評された赤水の詩は、そのほかにも多くあり、赤山・赤水遺稿集にも窺い知ることができます。

さて、そうした江村北海を歓待した矢橋邸の母家は「翠微亭」と呼ばれていたことも先述しましたが、余談ながら「亭」とは、テイ、チン、チヨウなどと漢音、唐音、呉音で読まれます。その意味は、もともと駅亭のことを呼ぶ言葉で

あつて、宿駅、旅籠屋、旅館などのことであると説かれ、さらに「ウテナ、トドマル、タイラカ、ヒトシ、タカシ、イタル」などの意を含んでおり、また同訓異義として庵、宮、殿、堂、館、家、室、宅、軒、斎、屋、舎、居、房、廬、窩、窟などの文字がずらりと並べられ、これらを総括して「住居」の義であるとされています。そうしたわけで古くから住居とか屋敷(邸)の母屋に対し、仮住居とか粗末な家、小屋といったものを「廬」リヨ、ロ、イオリなどと呼んできました。

以上、亭と廬または庵について辞書の二こまをひもといてみました。文字のもつ意義とか味わいといった深みの一端を勉強する楽しみがわかるような気がしました。

竹雪廬の扁額を揮毫

そこで話を本題に戻しますと、中山道赤坂宿の矢橋家を訪れ、同家の主人に案内されて金生山へ登った人々は多く、そうした人を全部知ることはできませんが、今ここに有名な学

者の一人として加賀の大聖寺藩儒者太田錦城(きんじょう)が矢橋氏の需めに応じて揮毫した「竹雪廬」の扁額を紹介し、併せてその人物像を訪ねてみたいと思います。

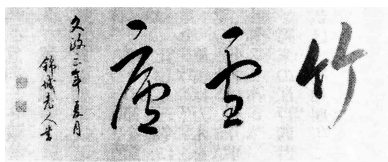
太田錦城は、明和二年(七六五)に生まれ、文政八年(八二五)に没した江戸時代中ごろの儒者(漢学者)です。名は元貞、字は公幹、通称は才佐と呼ばれ、雅号を錦城といいました。加賀百万石で有名な金沢の前田家の支藩で、大聖寺(石川県加賀市)の藩士の家に生まれていました。五歳のとき、既に立派な文字を書き、十一歳には詩をつくり、十三歳で『経書』や『史書』の講説ができるまでになっていたと伝えられており、神童とよばれていたといえます。

二十歳ごろに京都の学者皆川淇園(きえん)や、江戸

の山本北山といった有名な学者について学びますが、どちらも満足できず、独学で、宋、漢、唐、明、清朝などの学問や国学を学んで、古学に対し新しく考証学を取り入れた「折衷学」を提唱して一家をなした優れた学者です。

錦城は当時、幕府の老中であつた三河(愛知県)吉田(豊橋市)藩主に迎えられ優遇されたのですが、自分の出身である郷里の加賀の殿様からの再三の懇請を断り切れず藩儒官として仕えました。『世界人名事典 日本編』その他にも紹介され、著書も既刊、未刊、併せて七、八十種もあるといわれています。

この人が揮毫した矢橋家の「竹雪廬」の扁額は、文政三年夏月 錦城老人書」と銘記されています。



太田錦城筆の「竹雪廬」の扁額



矢橋邸の竹雪廬



矢橋林業株式会社